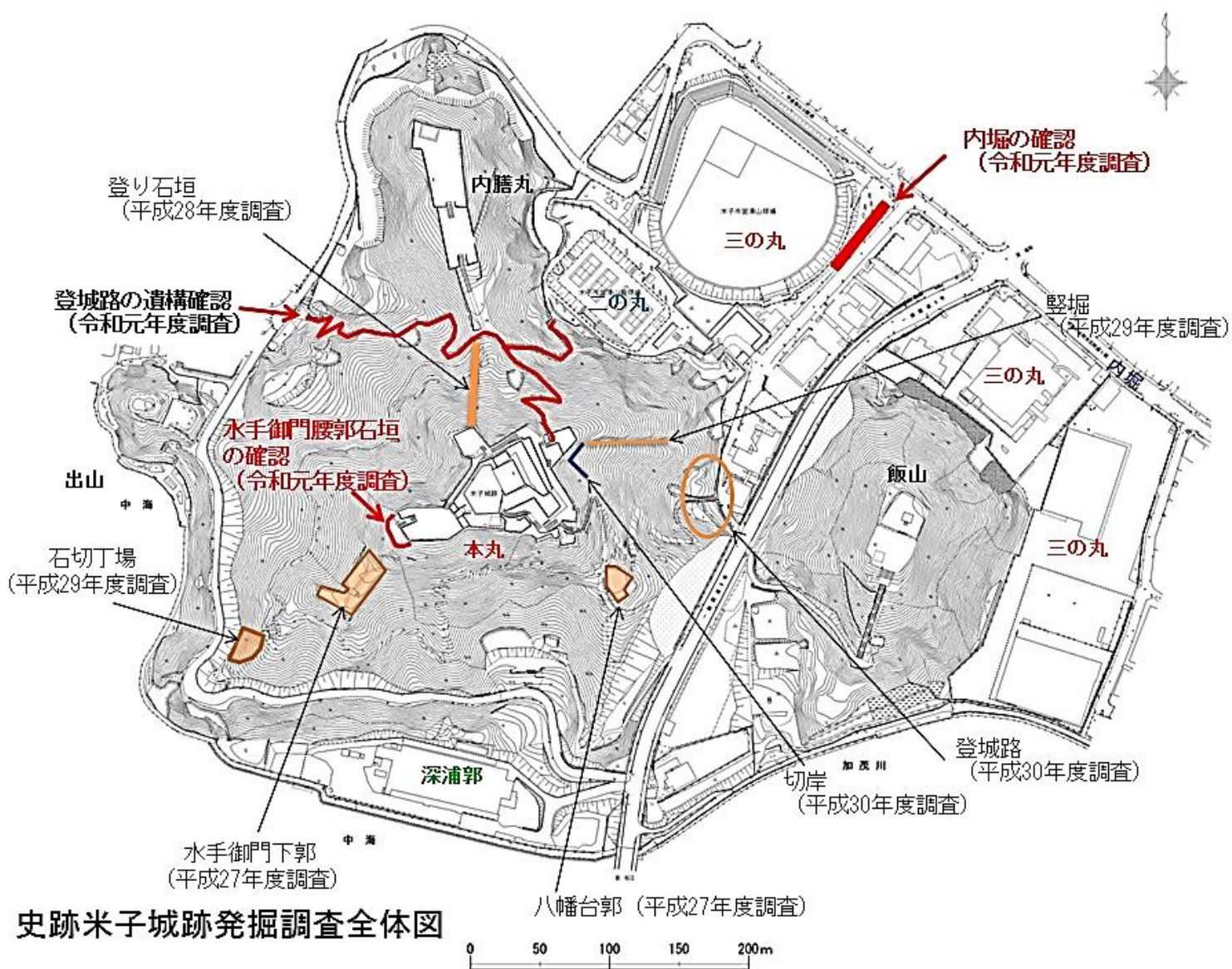


鳥取県米子市

史跡米子城跡発掘調査 現地説明会 2020資料



史跡米子城跡発掘調査全体図

令和2年 3月 28日 [土]

米子市文化振興課

史跡米子城跡発掘調査の成果について

米子市では、現在「史跡米子城跡保存整備事業」に係る、史跡内の内容確認を目的とする発掘調査を、平成27年度から進めています。

令和元年度に実施した発掘調査では、明治時代になり埋め立てられた内堀の一部と本丸うちぼり水手御門腰郭ほんまるの石垣を確認することができました。

1. 内堀の調査成果

米子城跡の内堀は、三の丸と武家屋敷を区画するために掘削された防御用の堀です。江戸時代には石垣で護岸されていて、三の丸側には土塁が作られ、さらに瓦葺きの土塀が巡っていました。

この内堀は、明治時代から埋め立てられ始め、昭和40年代までに全て埋め立てられてしまったため、現在では正確な位置が確定していませんでした。今回実施した発掘調査では、この内堀の南岸部と推測される湊山球場のレフトスタンド外側の平坦地に長さ21m、幅1.5mの調査区を設定しました。調査の結果、現地表面から1.5mほど下に石が積み上げられた石列を確認しました。

この石列は、検出した長さ5m、幅1.5m、高さ50cmの規模でしたが、石は一段のみで、高く積み上げられた石垣ではありませんでした。石の下には沈下を防ぐための胴木が置かれていたことから、道路の基礎と推測されます。石列の作られた時期ははっきりしませんが、出土した遺物から明治時代に作られ、昭和20年代に埋め立てられたものと考えられます。

この石列を挟んで南側（城山側）の層は、固く締まった粗砂が水平堆積しており、江戸時代の遺構面と考えられます。一方、石列の北側は柔らかい粘土が1m以上堆積していることから、この石列よりも北側が江戸時代に掘削された内堀と推測されました。江戸時代の記録では、堀の深さは4m程度とされていますが、今回の調査では、その深さまで確認することはできませんでした。

江戸時代の絵図では、堀の幅は16間半と書かれており、1間を2mと仮定すると、約33mの堀幅になります。今回検出した石列から北へ33mの位置は、ちょうど道路の歩道の端に近接していることから、現代の道路と堀の境界がほぼ一致する可能性が出てきました。
※元治2(1865)年の絵図の数値と現在の枡形石垣の寸法を合わせると、一間が約2mとなります。

弘化4(1847)年の絵図



調査地点

「米子御城門正面之御絵図面」
鳥取県立博物館所蔵 (県博登録No.1030)



検出された石列

2. 水手御門腰郭の調査成果

今回の調査では、3本のトレンチ（T25～27）から水手御門腰郭^{みすてごもんこしくわ}※1を巡る石垣がはじめて確認されました。

石垣は地山ローム及び基盤岩をL字状に削平して積んでいます。根石（一番下の石）から3段までは確認、それより上部は失われ、栗石（石垣裏に詰められた石）が露出、崩落した石垣は栗石と共に前面に転がった状態でありその後補修はまったく行われていません。

この腰郭については、元文4年（1739年）の「米子御城明細図」^{よなごおんしろめいさいず}に石垣が巡る郭として描かれていることがわかりました。T27で検出された鎬積（鈍角に曲げる積み方）^{しのぎつみ}の石垣は、この絵図に描かれているものと同じであり、絵図の信憑性を裏付けるものです。

また、石垣の積み方から、登り石垣や水手御門下郭と同時期に構築されたものと考えられますが、前面に転落した後に補修は行われていないことから、破城^{はじょう}※2行為が行われたことが推察されます。前述の絵図を見ると、城内路はこの腰郭までで途切れていることから、ここから水手御門下郭に降りる道は破城以降閉塞されたものと考えられます。

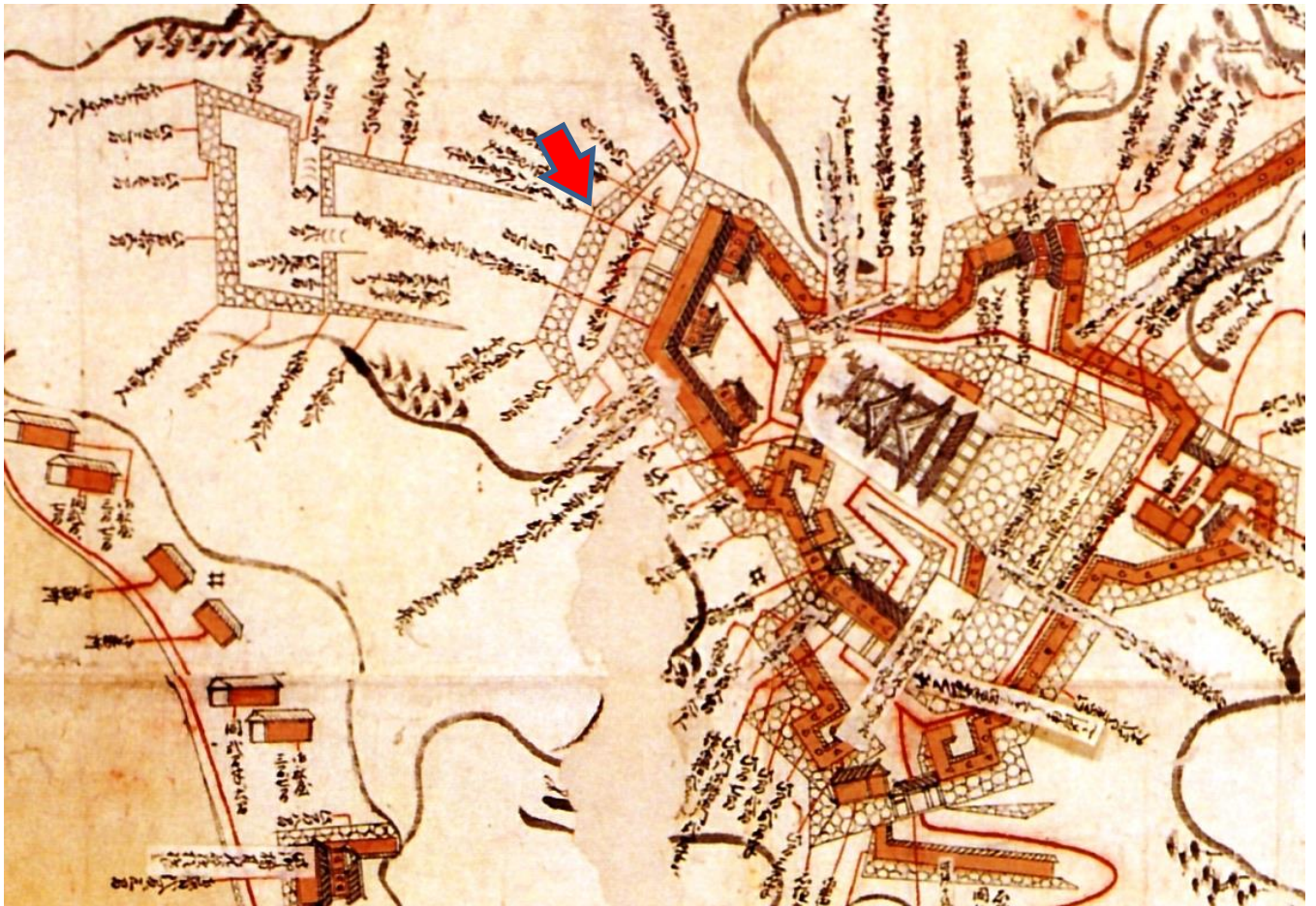
今回の調査では、米子城跡の築城初期の姿から改変の様子を知ることができました。

※1.腰郭^{こしくわ}：主要な郭から一段下がった部分、中心の郭を何重にも防御するとともにスペースを増やす効果もある。

2.破城^{はじょう}：城が再び戦いに使われることのないように破却すること。「城割り」ともいう。



水手御門腰郭石垣



「米子御城明細図 [元文4年(1739)]」に描かれた水手御門腰郭石垣 (→部分)



絵図と同じ鑄積の石垣 (上図→部分)

米子城関連年表

年	内 容
応仁 1 年 (1467)	応仁の乱の頃、米子飯山に山名宗之が砦を築く。
大永 4 年 (1524)	5 月 尼子経久伯耆に侵入 米子城、淀江、尾高などの城を攻め落とす。
永禄 5 年 (1562)	毛利元就の富田城攻め、因幡、伯耆へも進出。
永禄 9 年 (1566)	富田城陥落。山陰地域は毛利支配下に入る。
天正 6 年 (1578)	尼子勝久上月城で自刃 尼子氏滅ぶ。 この頃の米子城番は古曳吉種。
天正 9 年 (1581)	鳥取城落城、秀吉が伯耆一円を支配。
天正 13 年 (1585)	秀吉と毛利輝元の和睦 八橋以西の伯耆三郡が毛利領となる。
天正 15 年 (1587)	吉川広家 (吉川元春の三男)、吉川家の家督を継承。
天正 19 年 (1591)	吉川広家が秀吉から西伯耆、出雲、備後など 12 万石を認知され、富田城に入り、山県九左衛門を奉行として米子湊山に築城開始。
文禄 1～慶長 3 年 (1592～1598)	文禄・慶長の役 (朝鮮出兵) 吉川広家従軍 古曳吉種は朝鮮で討ち死 (1592)。 慶長 3 年 8 月、秀吉死す。 吉川広家、富田城に帰り湊山築城を監督、米子湊、深浦湊整備。
慶長 5 年 (1600)	関ヶ原合戦 吉川広家、西軍として出陣 吉川広家、周防国岩国 (3 万石) に転封、この頃米子城は 7 割方完成。 駿河国府中城主、中村一忠 (18 万石) が伯耆国領主となり尾高城に入る。
慶長 7 年 (1602)	中村一忠、尾高城から完成した米子城に移る。
慶長 8 年 (1603)	中村一忠、家老の横田内膳を暗殺 (米子城騒動)。
慶長 14 年 (1609)	中村一忠 20 歳にて死去、中村家は断絶。
慶長 15 年 (1610)	岐阜美濃国黒野城主加藤貞泰、伯耆国会見・汗入郡 6 万石領主となり入国する。
元和 1 年 (1615)	大坂夏の陣、豊臣氏滅ぶ。幕府は一国一城令を発布するも、米子城は保存と決まる。
元和 3 年 (1617)	加藤貞泰、伊予国大洲に転封、因伯領主となった池田光政の一族、 池田由之 が米子城預かり (3 万 2 千石) となる。
元和 4 年 (1618)	池田由之の死去、子由成が米子城主となる。
寛永 9 年 (1632)	池田光仲、因伯支配 (32 万石)、家老 荒尾成利 が米子城預かりとなる。
嘉永 5 年 (1852)	四重櫓と石垣を鹿島家の負担により大修理。
慶応 4 年 (1868)	明治維新。
明治 2 年 (1869)	朝廷より米子城返上の命令あり。
明治 5 年 (1872)	米子城山は土族小倉直人らに払い下げとなる。
明治 6 年 (1873)	城内の建物類は売却され、数年後取り壊される。

かるちゃんのちょっとお城の用語解



郭(くるわ) (曲輪)

城の内外を土塁、石垣、堀などで区画した区域の名称。本丸、二の丸、三の丸など主要な廓内には、城主の居所のほか、兵糧を備蓄する蔵、兵たちの詰所などのほか、郭の出入り口である虎口を閉める門や、塀、物見や攻撃を与える櫓(やぐら)が建てられた。

近世城郭(きんせいじょうかく)

織田信長の安土築城以後に普及した、石垣や瓦葺きの天守などを持つ城を指す。地域や支配者によって差がみられる。

御殿(ごてん)

政庁の場所でもあり、城主とその家族の住まいでもある建物。公的な空間である「表御殿」と、私的な空間である「奥御殿」がある。

本丸、二の丸、三の丸(ほんまる、にのまる、さんのまる)

近世では城の中心となる郭は本丸と呼ばれ、本丸に天守が設けられることが多かった。二の丸、三の丸といった呼称は、本丸からの位置関係によるもの。

竪堀(たてぼり)

敵の横方向の移動を防ぐため山の斜面と平行に縦(竪)に掘られた空堀のこと。

天守(てんしゅ)

城の中心に建てられた高層の櫓。「天守閣」は俗称。

土塁(どるい)、石垣(いしがき)

敵の攻撃、侵入を防ぐために、城の外周や郭の周囲に土を持って固めた施設のこと。

近世城郭では土塁に代わり、土塁壁面に石を積み上げた石垣が主流となる。

縄張(なわばり)

城の曲輪や堀、門、虎口等の配置をいう。城郭での戦いの勝敗を決める要素の一つに、城郭の形状・構造が挙げられる。そのため築城に際してなるべく防御側に有利になるよう、城郭の立地なども考慮して縄張が決められ曲輪が配置された。縄張の基本は城郭の核となる本丸の周囲に、二の丸、三の丸を効果的に配置することにある。

登り石垣(のぼりいしがき)

尾根を登るように築かれた石垣。豊臣秀吉の朝鮮出兵(文禄・慶長の役)の時に秀吉軍が朝鮮半島南岸に築いた倭城に多く用いられた構造物で、城域の遮断線や、山上と山麓の一体化、港湾防御などの目的を持つ。

枡形虎口(ますがたこぐち)

四角形の小さな広場である枡形と2つの城門を組み合わせた二重構造の出入り口のこと。敵の直進を防ぐために直角に折れ曲がっている。敷地から飛び出すように築かれたものを**外枡形**、敷地内に取り込まれたものを**内枡形**という。

堀(ほり)

敵の進撃をはばむための人工的な大溝で、水のない堀を「空堀」、水のあるものを「水堀」と呼ぶ。

櫓(やぐら)

主に郭の隅などに築かれた建物で、監視や攻撃の拠点としての役目を持つ。近世城郭では単層の平櫓、二重以上の櫓、長屋のような多門(多聞)櫓など多様化し、天守の代用となる櫓もあった。

米子城跡の最新情報を知るには…

「もっと知りたい！米子城」で検索！



- ❖ 様々なコンテンツで米子城跡の歴史や魅力、イベント情報などをご紹介します！
- ❖ 現地説明会資料、シンポジウム資料などもダウンロードできます。

米子城のことが一目でわかる…

米子市ホームページ

もっと知りたい！米子城

おもしろいよ！
ぜひご覧くださいね。



国指定史跡 米子城跡

Yonago Castle Ruins

<http://www.city.yonago.lg.jp/17789.htm>

【コンテンツ】

- ❖ 国史跡 米子城跡 > 米子城の歴史や現在の姿、城山の自然等について解説します。
- ❖ 史跡米子城跡保存活用計画 > 史跡米子城跡保存活用計画について紹介します。
- ❖ イベント情報 > 米子城に関する各種イベントのご案内
- ❖ シンポジウム等の開催記録 > 米子城に関するシンポジウム等の開催記録を紹介します。
- ❖ 米子城びより > 米子城跡での出来事や話題、イベント開催結果等を紹介합니다。
- ❖ 教えて！米子城 > 広報よなごに連載中の記事「教えて！米子城」のバックナンバーを紹介します。